

2020年度 造形美術・デザイン・映画分野の応募者のための注意書き

造形美術（絵画、彫刻）デザイン、映画分野の応募者は、DAAD ポータルで作成した応募書類と、作品、作品リストを郵送で提出すること。作品のリストや媒体への氏名の記載はすべてドイツ語か英語。原語が日本語の場合はアルファベット表記にする。提出する作品は以下の事項を満たすこと。

a. 絵画、彫刻、デザイン分野

作品は jpg で保存した画像、PDF・Power Point を使用したプレゼンテーション形式、または特別な理由がある場合のみ紙媒体のポートフォリオのいずれか一つの形式で提出する。原本は提出しないこと。作品のデータは DVD または USB メモリに保存し、すべての媒体に応募者氏名（アルファベット）を記載する。各提出形式についての注意点は以下の通り。

個々の画像(jpg) またはポートフォリオ(PDF) を DVD または USB で提出：

- 画像は jpg で保存する。
- すべての画像は、できる限り一つのフォルダにまとめること。フォルダ名には応募者の氏名を記載すること。
- 異なる技法で作られた作品がある場合（写真、グラフィック、デッサンなど）フォルダの中にサブフォルダをそれぞれひとつずつ作ることができる。サブフォルダはそれに応じてタイトルをつけること（例：photos, graphics, sketches etc.）。また、それ以上のサブフォルダの作成はしないこと。
- 提出する画像の一覧リストを作成し、作品データと同様に保存する。リストには作品タイトル・技法・サイズ(cm)・制作年、場合によっては共同制作者の氏名を明記すること。
例) Close Encounters, Oil on Canvas, 30x40cm, 2019, together with Monika Mustermann
- 彫刻作品は全体像が分かるように異なる角度からの画像を提出すること。
- www.daad.de/artists-application でも提出形式の注意点を動画で解説しているので参照すること。

印刷したポートフォリオで提出：

- 根拠のある場合、例外的に紙媒体でポートフォリオを提出することができる。
- www.daad.de/artists-application でも提出形式の注意点を動画で解説しているので参照すること。

※提出した作品は審査の際、大きな影響力をもつ。優れた作品でも提出作品のプレゼンテーション方法によって評価が変化することがあるので注意をすること。

b. 映画分野

- 映像の長さは、8 分を超えないこと。8 分を超える作品の場合は場面を抜粋すること。8 分を超えるものは審査対象外とする。
- ショーレールやトレーラーは認められない。
- 映像自体が芸術作品であるのか、芸術作品を記録した映像であるのか（空間インスタレーション、パフォーマンスなどの場合）を明らかにすること。
- 媒体は通常の DVD（リージョンコードなし、複製可能、メニューの有無は問わない）か USB メモリで提出すること。Windows の VLC Media Player で再生可能なこと。
- 媒体には題名、作者名、作品の長さ、制作年を表記すること。複数の作品が一つの媒体に含まれている場合、作者、作品数、全作品の合計の長さを表記すること。
- 複数の人間による作品の場合は、参加者それぞれの担当を明確にし、特に応募者の役割（監督、撮影 etc.）についてははっきりとわかるような形で作成すること。

※すべての応募者への注意：

- 作品提出の方法として、作品のオンライン保存先へのリンクは認めない。
- 作品やポートフォリオを DAAD ポータルにアップロードしないこと。
- 審査の際、提出された作品は HD ビーマーで映写される。

提出作品の DVD または USB メモリの返却を希望する場合は、ドイツ語もしくは英語でその旨の文書を同封すること。返却希望の文書が同封されていない場合、提出作品はその他の書類と同様、選考会から 12 か月以内に破棄される。

提出媒体を DAAD 本部に郵送中に紛失、破損する可能性があるため媒体の複製を必ず作成し、手元に保管すること。

※本注意書きはドイツ語・英語の原文を基に省略・補足したものである。必要があれば原文を参照すること。